

富士山(上井出)

武田信玄は駿河の国を重視しており、信玄と駿河は結びつきが非常に強かった。浅間大社、大宮城、のろし台(駿州往還)、毛無山金山等その結びつきの強さが窺える。富士宮市上井出は市街より北へ約 10km 行ったところにあり、ここからの富士山の眺望は素晴らしい。

武田家滅亡後、甲斐に入った織田信長は天正 10 年(1582)4 月 10 日、甲府を出立し帰国の途に就いた。4 月 12 日、本栖を未明に出発した。

富士山の裾野、かみのが原、井手野、人穴、浅間神社、源頼朝が狩りの館を建てた上井手の丸山、白糸の滝、及び浮島ガ原の名が「信長公記」に見られる。地名の上井手「かみいて」は上井出「かみいで」と、人穴「じんけつ」は「ひとあな」と云われるようになった様である。

上井出の中に、上宿、中宿、下宿がありそこに宿があった。江戸時代の富士講信者は白糸の滝の水で身を清め富士山に登っていたので、宿は多くの信者で込み合っていたに違いない。

(川端紅葉著 2026・2・20)



「富士山(上井出)」©1994.1 川端紅葉